

- ・住居表示とは
- ・住居表示のしくみ
- ・「実施区域内の住居表示の方法について」
- ・相武台地区の概要
- ・相武台地区住居表示実施のアンケート調査結果

住居表示とは

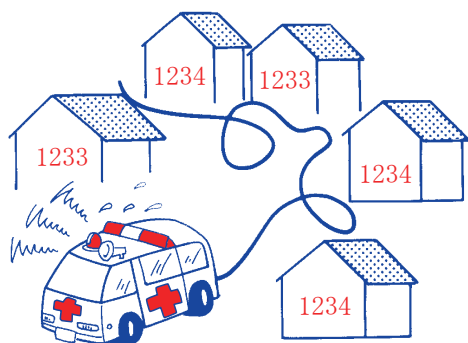
現在、私たちは住所を表すのに町名と地番を用いています。この「地番」とはもともと、住居を表すために付けられたものではなく、明治のはじめ、主に徴税を目的として土地に付けられた番号です。

このため、地番は一軒の家で一つとは限りません。同じ地番に多数の家が建っていたり、土地の売買などに伴い分筆・合筆が行われ、枝番や欠番が生じ大変複雑なものとなっています。

そこで、住所の表示をわかりやすいものにするため、「住居表示に関する法律」に基づく住居表示制度が全国的に実施されており、本市でも相模が丘など11の地区が新しい住居表示となっています。

座間市住居表示実施区域

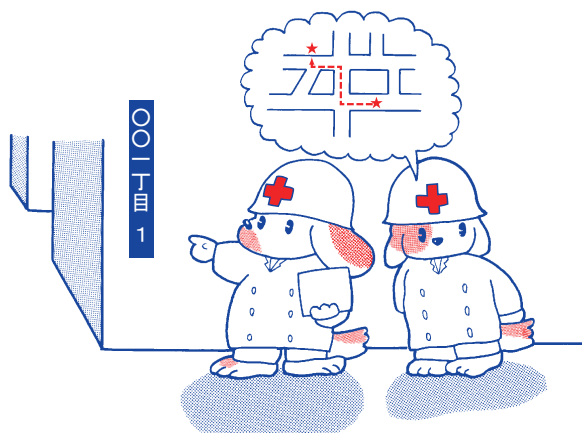
町名	実施年月日
相模が丘一丁目～六丁目	昭和56年6月1日
東原一丁目～五丁目	昭和58年11月7日
さがみ野一丁目～三丁目	昭和60年10月21日
緑ヶ丘二丁目～六丁目	昭和62年10月19日
南栗原一丁目～六丁目	平成元年10月16日
栗原中央一丁目～六丁目	平成3年10月14日
緑ヶ丘一丁目	平成4年12月16日
立野台一丁目～三丁目	平成5年11月1日
西栗原一丁目・二丁目	平成5年11月1日
小松原一丁目・二丁目	平成9年10月20日
広野台一丁目・二丁目	平成11年9月13日
ひばりが丘一丁目～五丁目	平成14年9月17日



現在の住所は土地の符号である「地番」を使っていますが、番号が飛んでいたり、同じ地番に多くの家が密集していたりしてわかりにくくなっています。

そこで...

住居表示を実施し、建物に順序よく番号を付けて、「〇〇□丁目□番□号」の表示にします。

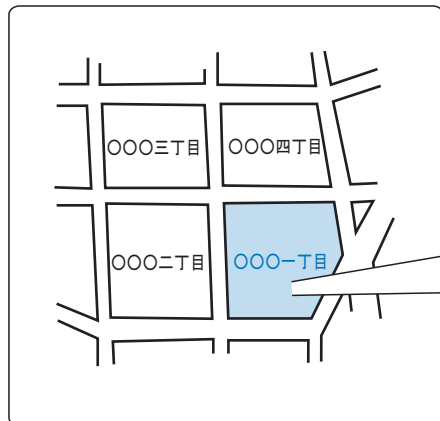


住居表示のしくみ

※図面は説明用のもので、今回実施区域の地形とはちがいます。

新町名

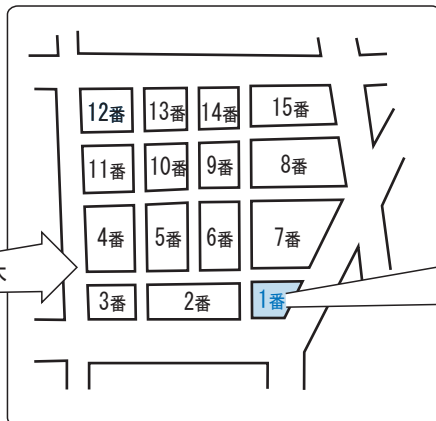
〇〇〇一丁目



↑町の区域をはっきりわかりやすく区切り、〇〇〇×丁目にします。

街区符号

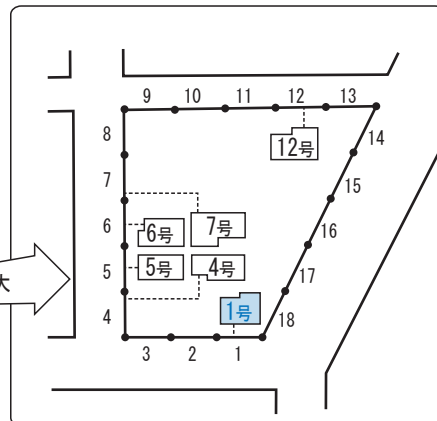
1 番



↑町(〇〇×丁目)の中を分割してブロックに分け、順に街区符号を付けます。

住居番号

1 号



↑街区のまわりに基礎番号を設定し、家の出入口位置によって住居番号を決めます。

※ 相武台地区については、現在の町区域に変更はありませんが、町名の算用数字部分が漢数字に変更となります（相武台1丁目→相武台一丁目）

新しい住所の表し方

住居表示(住所)の表し方

実施前

座間市 相武台1丁目 123番地4

実施後

座間市 相武台一丁目 1番 1号
新町名(漢数字) 街区符号 住居番号

本籍の表し方

※町名の算用数字が漢数字に変更となります。番地は従来通りです。

実施前

座間市 相武台1丁目 123番地4

実施後

座間市 相武台一丁目 123番地4
新町名(漢数字)

不動産(土地)の表し方

※町名の算用数字が漢数字に変更となります。地番は従来通りです。

実施前

座間市 相武台1丁目 123番4

実施後

座間市 相武台一丁目 123番4
新町名(漢数字)

「実施区域内の住居表示の方法について」

1 住居表示の実施方法

住居表示は基本的に住居・建物に順序よく番号を付けていくことで、住所の表示を分かりやすいものにしようという制度です。住居表示の実施方法には次の二つの方法があります。

- ① 街区方式
- ② 道路方式

日本の住居表示の方法は、街区方式で行われています。道路方式は、道路に一定の方式で名称をつけ、その道路に沿って建っている建物に住居番号をつけていく方式ですが、主として欧米諸国で採用されております。日本の道路事情を考慮した場合、また町名と番地によって住所を表すという慣習からすれば、この道路方式を取り入れるのは難しいものがあると思われます。

このため、「相武台地区」においても「**街区方式**」の方法で住居表示を実施したいと考えます。

2 街区方式について

別紙「住居表示とは」を参照。

※ 参考（住居表示に関する法律）

第二条 市街地にある住所若しくは居所又は事務所、事業所その他これらに類する施設の所在する場所（以下「住居」という。）を表示するには、都道府県、郡、市（特別区を含む。以下同じ。）、区（地方自治法(昭和22年法律第67号)第252条の20の区をいう。）及び町村の名称を冠するほか次の各号のいずれかの方法によるものとする。

- (1) 街区方式 市町村内の町又は字の名称並びに当該町又は字の区域を道路、鉄道若しくは軌道の線路その他の恒久的な施設又は河川、水路等によって区画した場合におけるその区画された地域(以下「街区」という。)につけられる符号(以下「街区符号」という。)及び当該街区内にある、建物その他工作物につけられる住居表示のための番号(以下「住居番号」という。)を用いて表示する方法をいう。
- (2) 道路方式 市町村内の道路の名称及び当該道路に接し、又は当該道路に通ずる通路を有する建物その他工作物につけられる住居番号を用いて表示する方法をいう。

座間市の住居表示実施状況

(1) 実施率（平成24年4月1日現在）

面 積 (ha)			人 口 (人)		住居表示実施率 (%)		
全 域	市街化	実施済	総人口	実施済	対面積		対人口
					全 域	市街化	
1,758	1,253	811	129,370	87,707	46.13	64.72	67.8

(2) 実施経緯（平成24年4月1日現在）

	実施年月日	新町名	旧町名	街区数	面積 (ha)
第一次	昭和56年6月1日	相模が丘一丁目～ 六丁目	相模台	319	135.4
第二次	昭和58年11月7日	東原一丁目～五丁目	栗原	82	73.5
第三次	昭和60年10月21日	さがみ野一丁目～ 三丁目	栗原	29	19.6
第四次	昭和62年10月19日	緑ヶ丘二丁目～六丁目	緑ヶ丘 栗 原	149	70.6
第五次	平成元年10月16日	南栗原一丁目～六丁目	栗原	127	69.9
第六次	平成3年10月14日	栗原中央一丁目～ 六丁目	栗原	161	82.8
第七次	平成4年12月16日	緑ヶ丘一丁目	緑ヶ丘	28	13.5
第八次	平成5年11月1日	立野台一丁目～三丁目 西栗原一丁目～二丁目	立野台 栗 原 入谷 5 丁目	87 27	71.4
第九次	平成9年10月20日	小松原一丁目～二丁目	小松原1・2 丁目	111	67.4
第十次	平成11年9月13日	広野台一丁目～二丁目	広野台1・2 丁目	60	67.6
第十一次	平成14年9月17日	ひばりが丘一丁目～ 五丁目	ひばりが丘 1～5丁目	313	139.3
				1,493	811

相武台地区の概要

1. 位置

市庁舎の北方向に位置し、その北西側は、相模原市の行政境に面しています。北東側は、広野台一丁目に、東側は、栗原地区に、南側は、緑ヶ丘三丁目・四丁目・六丁目に接しています。

2. 経緯

当地区は、昭和 49 年 1 月に地方自治法 260 条の規定により、町名変更を行い、現在の町区域が形成されました。当時、この地域は、相武台・座間入谷・座間・栗原・緑ヶ丘など大字が入り組んで混在する地域でそのため町の区域が不整形であったり、飛び地等による地番の混乱は日常生活に多くの支障を与えていました。こうした不便さを解消するため、町の区域を定め 1 丁目から 4 丁目までの区域を画定したものです。

3. 住居表示の必要性

町名変更実施年（昭和 49 年 10 月）の人口は 6,743 人でしたが、平成 24 年 4 月現在の同地域は、世帯数 4,930 世帯、人口 10,238 人を数え、約 1.52 倍に増加した状況にあります。こうした中、一つの地番に対して多くの枝番が付けられ、しかもこれが順序よく並んだものでないため、地番の混乱を解消する目的で行われた町名変更の意義が薄れつつあるのが現況です。このような問題を解消するため、住居表示は昭和 37 年に制定された「住居表示に関する法律」に基づいて、全国的に実施している制度で、本市においても住居表示の実施に努めています。

4. 地域の特性

面積・人口・世帯数は、下表のとおりです。
相武台 1 丁目と 2 丁目の間には主要地方道県道町田厚木線があり、また、玄関口として、小田急線相武台前駅があり、朝夕の乗降客は多く、人口密度から言えば、相模が丘に次いで高く、人口密集地である。

(平成 24 年 4 月 1 日現在)

町名	面積 (h a)	世 帯 数	人口 (人)
相 武 台 1 丁 目	2 7 . 6	1 , 5 6 0	3 , 0 8 4
相 武 台 2 丁 目	2 0 . 0	1 , 2 4 7	2 , 9 4 0
相 武 台 3 丁 目	1 9 . 2	1 , 4 6 8	3 , 0 4 5
相 武 台 4 丁 目	8 . 2	6 5 5	1 , 1 6 9
合 計	7 5 . 0	4 , 9 3 0	1 0 , 2 3 8

相武台という地名

この「相武台」という名は、昭和12年に陸軍士官学校の一帯の広大な相模野を総称して昭和天皇が命名したのですが、陸軍は「相武台」という地名の使用を陸軍士官学校の敷地と練兵場に限ると制限した。したがって、小田急線の駅名は「相武台」でなく、「相武台前」になっているのはその理由からである。そのため戦前この地域の通称も「相武台前」と呼ばれていたが、戦後それらの使用制限もなくなり、次第に「相武台」の地名が使われるようになった。昭和35年には耕地整理により、「相武台」を正式名にして、大字として独立した。さらに、昭和49年1月に地方自治法260条の規定により、町名変更を行い、現在の町区域が形成された。当時、この地域は、相武台・座間入谷・座間・栗原・緑ヶ丘など大字が入り組んで混在する地域でそのため町の区域が不整形であったり、飛び地等による地番の混乱は日常生活に多くの支障を与えていました。こうした不便さを解消するため、町の区域を定め1丁目から4丁目までの区域を画定したものです。

相武台地区住居表示実施のアンケート調査結果

調査の仕様

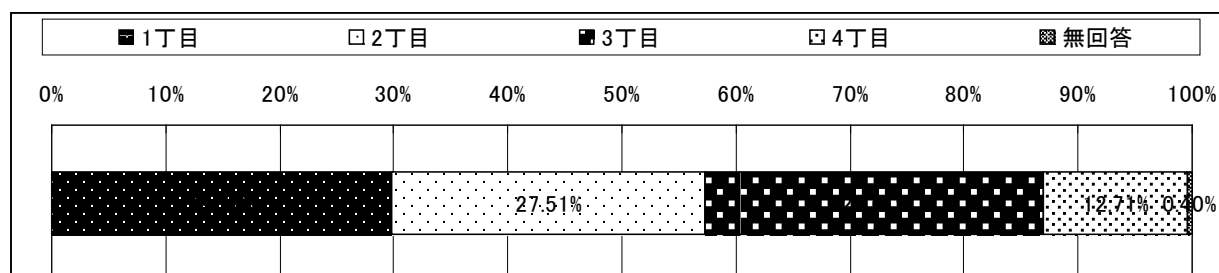
調査地域	座間市相武台地区
調査対象	座間市相武台地区に在住、若しくは事務所を置かれている方
対象数（事業所含）	5,010
抽出方法	相武台地区より全戸抽出
調査方法	全戸配布、郵送回収
調査期間	平成 23 年 8 月 1 日～9 月 15 日

回収結果

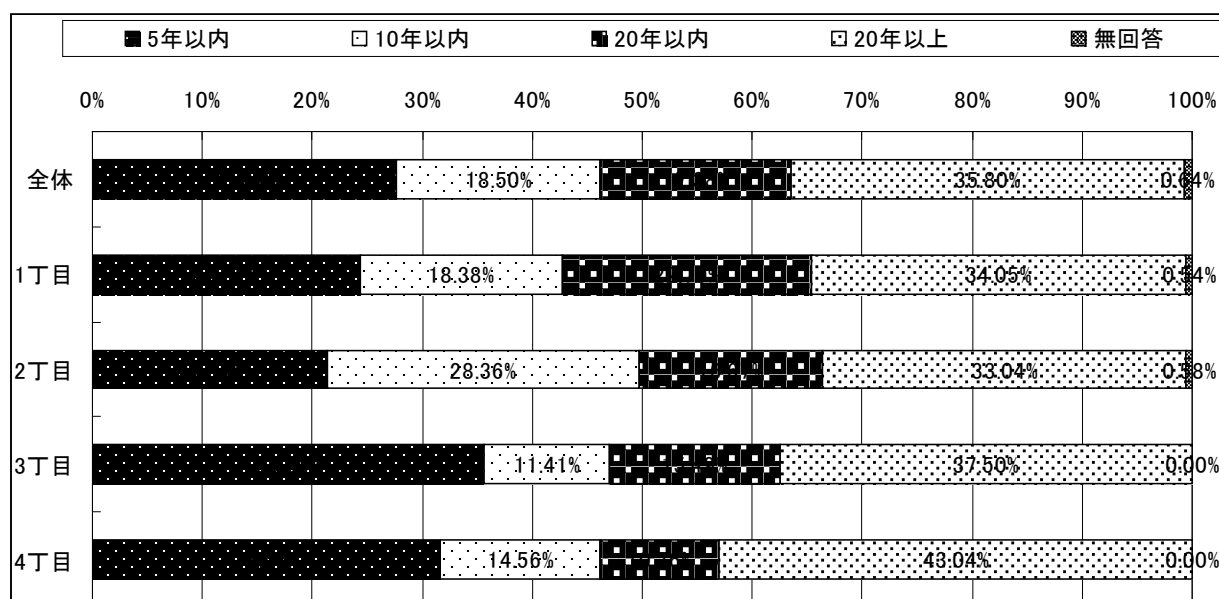
標本数	5,010
回収数	1,243 （回収率：24.81%）
有効回収数	1,243 （有効回収率：24.81%）

調査の結果

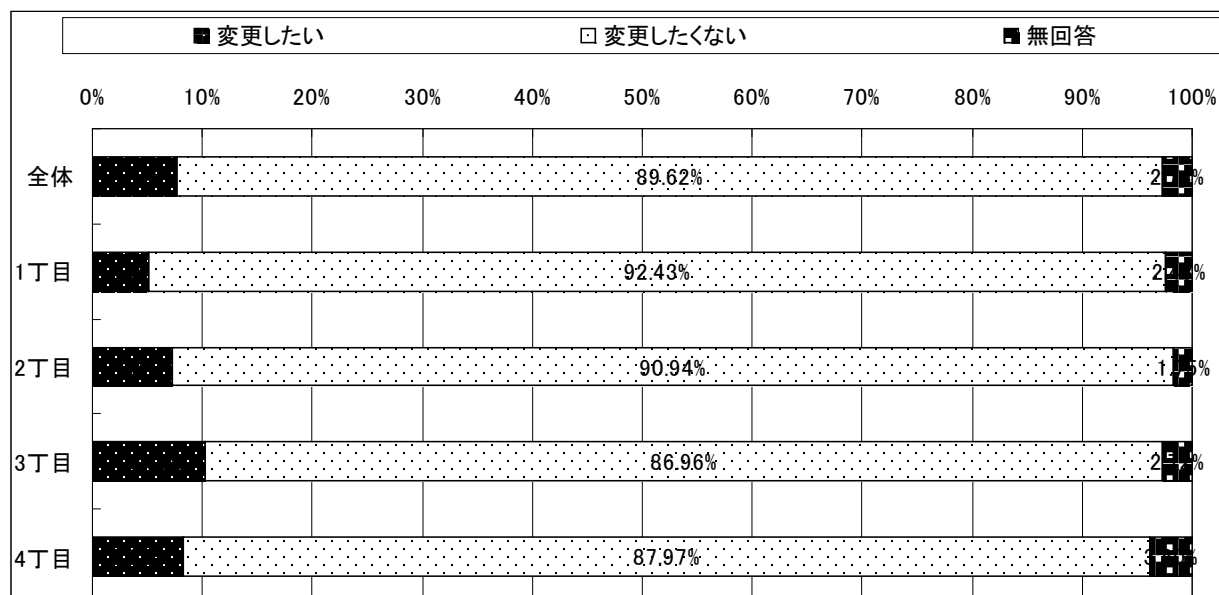
1. お住まいになっている場所（事業所の場所）はどちらですか？



2. お住まいになって何年になりますか？（その場所で事業を始めて何年になりますか？）



3. 実施にあたり、町名を変更したいですか？



4. 新しい町名はどのような名称にしますか？（設問3で「①変更したい」を選択された方へ）（抜粋）

- ・ 「相武台」を生かした名称（相武台南、相武台中央、本相武台、相武台前 等）
- ・ 座間市の花である「ひまわり」を生かした名前（ひまわり台、ひまわりが丘 等）
- ・ これら以外の名前（清水、中央、本町 等）

※参考（相武台の地名について）

今回の自由意見の中に、「相武台の地名の由来について知らない人も居るだろうから、それを伝えて欲しい。」との内容がございました。簡単ではありますが、この場でご説明します。

「相武台」の名は、昭和12年に陸軍士官学校の一帯の広大な相模野を総称して昭和天皇が命名されたのが始まりです。当初は陸軍により、「相武台」の地名の使用は陸軍士官学校の敷地と練兵場に限るとされていました。そのため、現在の相武台地区一帯は「相武台前」という通称で呼ばれていましたが、戦後、使用制限もなくなり、次第に「相武台」の地名が使われるようになりました。昭和34年に「相武台」の通称を正式名として大字「相武台」となり、さらに昭和49年1月1日に町名変更が実施され、現在の「相武台1丁目～4丁目」となりました。（座間市文化財調査報告書 第18集「座間の地名」 座間市教育委員会発行 より抜粋）

5. 自由意見（抜粋）

（要望）

- ・ 変更に係る手続きを分かり易く教えて欲しい。
- ・ 個人の負担が大きいので住居表示そのものを取り止めて欲しい。
- ・ 地番が複雑になってしまい、地番では分からないので住居表示を行って欲しい。
- ・ 相武台は昭和天皇より賜った由緒ある地名なのだから変えないで欲しい。
- ・ 相模原市と同じ相武台では分かりにくい。他の町名にして欲しい。 等

（質問） （座間市ホームページ内「住居表示に関する質問と回答」もご覧下さい。）

質問1 個人で行う手続きが多過ぎるのではないか。

回答1 市役所にある公簿は自動的に変更されますが、お手元の各種免許証・証明書や不動産登記簿の所有者の住所等の変更に関しましては皆様に行っていただく必要がございます。手続きの数は少ないと言い切れるものではございませんが、多くの変更に關して期限は設定されておりませんので、必要となった際、若しくは更新の際などに併せて行っていいただければ負担を軽減していただけるかと存じます。

質問2 現状不便を感じていないが、なぜ住居表示をするのか。

回答2 将来的に確実に不便になるためです。現在、相武台の住所は地番を借用した形で表記され

ていますが、地番は土地の分筆、合筆等により枝番がつき、当初は整列されていた番号も次第に入り乱れ、規則性の全く無い配置になってしまいます。このような状況ですと、例えば消防車や救急車が建物に迅速に到着することの妨げとなったり、荷物や郵便物の遅配・誤配を招いたりする恐れがあり、この可能性は地番が複雑になるほど高まります。このような状況を防ぐ為にも、住居表示を実施する必要性がございます。

質問3 住居表示には十分な費用対効果が望めるのか。

回答3 長期的には十分に見込めます。住居表示は直接的に利益の発生する事業ではございません。

しかし、回答2でお答えしたように潜在的なリスクを軽減してくれるほか、行政としては事務手続きの円滑化が図られコストの低下が見込めますし、訪問者の方には訪れやすく分かりやすい街になりますので相武台地区での商業や営業活動による効果が向上し、地区の活性化に繋がります。これらの効果は目に見える劇的な変化ではございませんが、長期に渡って継続するもので、十分な効果が見込めるものと考えています。